

2025 年 8 月 1 日

**【SUPER GT 第 4 戦 / 富士スピードウェイ】
大会直前情報**

2025 年 SUPER GT 第 4 戦は、ゴールデンウィークに続き富士スピードウェイが舞台。SUPER GT 史上、公式戦では初となるスプリントレースで行われます。

SUPER GT は、ドライバー 2 人が 1 台のマシンをシェアし、300km のレース距離を基本としています。過去には、鈴鹿 1,000km がカレンダーに組み込まれることもあり、500～1,000km という長い距離のレースが行われることもありますが、公式戦で短距離のレースを開催するのは初めてのこと。今回は、8 月 2 日(土)には通常の 2 クラス混走でのスプリントレース(レース 1)、3 日(日)は GT500 クラス、GT300 クラスがそれぞれのクラスだけで戦うスプリントレース(レース 2)という、今までにないレースフォーマットが採用されています。

レース 1 の周回数は 35 周(約 160km)。予選から決勝まで 1 セットのタイヤを使用するためトータルで 40 周程度の走行距離を想定しており、これは 300km レースのおよそ 1 ステント分に相当します。レース 2 は 50 分間の時間レースになっており、こちらも予選まで含めるとレース 1 とおおむね同じような周回数になると考えられます。

混走ではないレース 2 では、GT500 クラスは GT300 クラスを追い抜く場面がないため、トラフィックにかかってペースを下げる事がなくなります。通常のフォーマットでは起きない、常に高速で走り続けるという状況は、タイヤには普段とは違う負荷がかかる可能性があります。そういった点においても、今大会に向けたタイヤはパフォーマンスの高さは残しつつ耐久性を確保したものを準備しました。

GT300 クラスは、現在ランキングトップ 6 の中にヨコハマユーザーが 3 台入っています。今大会はサクセスウェイトを降ろしての戦いになるため、ウェイトという足かせを降ろした強豪チームが大量ポイントを獲得できることが期待されます。GT500 クラスも、6 月に開催された第 3 戦マレーシア大会では「WedsSport ADVAN GR Supra (国本雄資選手／阪口晴南選手)」がポールポジションを獲得し、暑いコンディションでの速さを見せました。同じく夏場の

高温域での戦いとなる今大会でも力強いパフォーマンスが見どころです。「リアルイズコーポレーション ADVAN Z(松田次生選手／名取鉄平選手)」もベテランの松田選手と速さのある名取選手のそれぞれの強みを活かし上位入賞に期待がかかります。

SUPER GT に挑むどのチームも初めてとなるフォーマットで展開予測の難しい 1 戦となりますが、どのチームも最大限のパフォーマンスを発揮できるよう、足元を支えるタイヤメーカーとして今大会も全力で挑みます。

